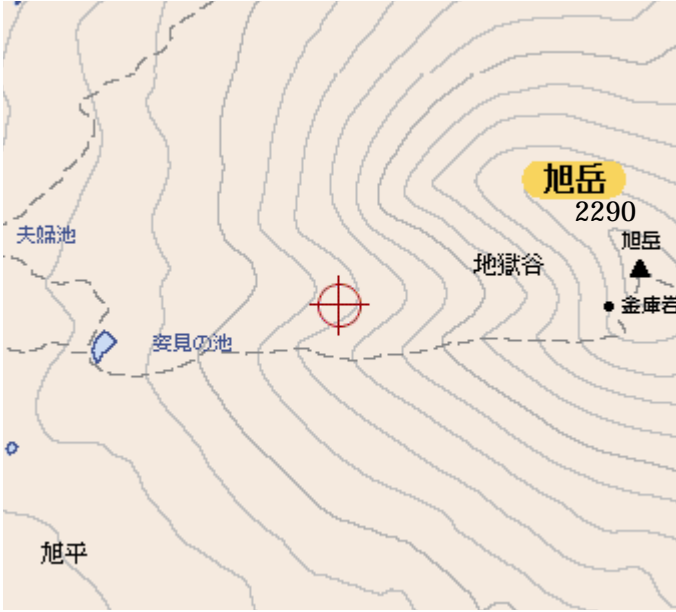



<h2 style="text-align: center;">月度個人山行報告書</h2>			報告者	町田 修	参加メンバー	L: 町田 (ファミリー: 3名)
			報告日	05/8/24		
山域	北海道 大雪	山行日	05年8月 12(金)			
山名	旭岳					

山行目的	ファミリーキャンプ体験ツアー	コースタイム:	天候: 快晴
------	----------------	---------	--------

配布先	ルート図
集会:12	
山行:1	
原紙:集会担当者	

8月12日(金)	
5:00 起床	
6:30 ロープウェイ発	
6:45 姿見の駅着	
7:00 登山スタート	
噴煙が勢いよく噴いている	
7:40 8合目	
7:50 斑な残雪が涼しげである	
9:00 山頂着	
9:35 20年前もモザイク文字があった	
10:25 姿見の駅着	

チングルマ

山行報告 前日(8/11)稚内から旭川に入った。麓のスーパーで食料を仕入れ「青少年キャンプ場」に入る。此処のキャンプ場は20年前の8月12日夕刻、日航機123便が御巣鷹山に墜落した時に当時の夏山合宿で入山した場所である。夕刻のラジオから流れる訃報に心痛の思いが隠せなかった事を鮮明に記憶している。さて旭岳だが、利尻山で疲れきった体は思いのほか回復せずロープウェイを使ってのアタックとする。標高1600mの姿見の池は旭岳をくっきり映している。池の周辺や登山道の脇にはまだ名残の高山植物がきれいに咲いている。歩き出すと案外足取りも軽く、山頂までの標高差690mも時々谷から吹き上げて来る硫黄の匂いの刺激や、白雲岳当たりには点在する残雪を見ながら歩くうちいつの間にか山頂に立った。大雪の山々は雄大である、この景色を見て子供たちもほんの少しでも心が広がってくれば幸いだ。広い山頂には石ころをつなげてワンゲルの連中がモザイク文字を描いていた。かつて此処からトムラウシ・十勝岳へと縦走した若い日が懐かしい。あやしげな記憶の高山植物の名前をさも得意げに教えながら、ゆっくりと姿見の駅に下った。

キャンプ場でのハプニング


夜半、激しくテントを揺さぶる音に目を覚ます。寝相の悪い子供の仕業と思ひしや、外からの動物らしい。長男が外に飛び出したがすぐに逃げた後だった。テントの角に置いてあった食料を狙ってテントを引掻き一部取り出していた。

下山後管理人に聞くと「キタキツネ」が犯人らしい。

所見

連日の好天に恵まれて最北の山・最高の山を家族で登れてとってもハッピーな北海道の山旅でした。



確認(リーダー)	
作成(報告者)	